

しろちどり



第79号

特集：紀伊長島の海と鳥

2014年3月 日本野鳥の会三重
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

堀内 弘 大いに語る 紀伊長島の海と鳥 (その1)

語り： 堀内 弘
取材・編集：平井正志・西村 泉

＝カンムリウミスズメ＝

調査の仕事

ここは国の指定した鳥獣保護区で、その管理ということでやっとなる。長島には国の天然記念物が3つある。カンムリウミスズメ（カンムリ）とカラスバト、あとひとつは大島（紀伊大島）の亜熱帯植物群落、その他で目立つものはオオミズナギドリの繁殖地、大島かな。

自分は子供ことから山のほうによってメジロやウグイスを捕りよったのさ。鳥は好きだった。30 過ぎくらいの時松尾さんから「環境庁の調査をいっしょにしないか」と声をかけられ。10 年くらい一緒にしたんさ。それから松尾さんがなくなって、自分だけでやるようになった。ひとりでやるのは船の免許が必要なんさ。免許も取ったし、船も中古をかうて。だから、自分の船は調査だけの船で漁船ではないんさ。自分は漁師の息子やけど、漁師は弟がやっていて、自分は漁業権もないし、釣りもしないんさ。もうひとり上田さんという人も調査に参加していたが、仕事で忙しくなってやめてしまった。自分だけでやるようになって、もう10 数年になる。 だいたい、月2 回くらい、夏場は1 回、カンムリのおる時は月に3 回も4 回も行くんさ。カンムリの調査は長島港を7 時か8 時に出て、午前中までやね。あんまり遅いと南風が吹いてきて危険な時があるもんで。

遠い時は尾鷲沖から五か所沖まで見に行くんさ。一度五か所の方について、写真と撮っておって、気が付くと海が（荒れて）真っ白になっておるんさ。1 時間で行きよった所を3 時間かかって帰った。まあ怖かったあれは。漁師の人は東へ行ったら気を付けよというんや。海の上は10 分あつ

たら変わるんで。船に乗っとると、いろいろなものを気つけんならんのださ。

目 次

堀内 弘 大いに語る紀伊長島の海と鳥	1
カンムリウミスズメについて	5
蓮田のシギ・チドリ	6
1401 ミヤコドリカウント	8
ミヤコドリ追記	9
解 説	9
事務局だより	10
野鳥記録	10
探鳥会報告	15
編集後記	19

表紙の言葉

西村 泉

2013年12月8日明和町の水田に1羽のコウノトリがいた。北風に吹かれながらも凜とたたずみ、乱れた羽毛の白さが際立ってとても美しかった。

このコウノトリには足環がついていた。兵庫県立コウノトリの郷公園によると、2013年4月生まれのメス j0072 ではないかという。この個体は6月に足環をつけられたのち11月中旬まで九州にいて、11月21日に京都で目撃されてから情報がなかったそうだ。

かつてコウノトリは絶滅が心配され、国がこの鳥を「特別天然記念物」に指定し、半世紀をかけて保護増殖に取り組んできた。その結果、自然へと放鳥できたのはつい最近のことだ。

しかしコウノトリをとりまく環境は、その昔よりさらに悪化している。農薬の問題、水田をふくむ湿地の減少や消失、放射能汚染、異常気象 等々。いつまでも、この鳥を見ることができるようにと願わずにはいられなくなった。

カンムリウミスズメの渡来

カンムリは早い時は 12 月 20 日ころ探しに行けば見えるんさ。でもまだ遠いんさ。その頃は 1 時間以上かけて、ミヤマ沖まで出て探すと見えるんさ。1 月になると島勝浦の近く、フタマタといって島があって、その近辺に見えるんさ。今年(2013 年)の 3 月、4 月には多かった。島勝の付近に多かった。

多いと 20 も 30 もの群が見える時もあるんやけれど。オオミズナギドリが多いと怖がってカンムリがかたまってくるんさ。沖にオオミズがおるとカンムリが怖がって陸の近くに来るんさ。

冬は大島まで行くと大台(大台が原山)がずっと見えるんさ。雪が積つととめちやくちや寒いもん。大台から降りてくる風が強いんさ。それと志摩半島から来る北風もえらい。

カンムリウミスズメの繁殖

3 月に入ると「つがい」になつとるんやけどね。早いうちは偶数やけど 3 月終わりには巣に入りかけるもんで数はバラバラになって奇数になってくる。一羽が巣に入って抱卵していると。海に出るのは一羽になるもんで。

巣も何回か見ている。島の岩の割れ目に

巣を作っている。確認されているのは耳穴島だけやが、大島にもあると思うんやけどね。耳穴島の巣は崖にあつてさがせない所もたくさんるんやけど。巣は全部で 100 巣以下やろうとおもう。卵はめちやくちや大きんさ。にわたりの卵より大きい。あの小さい鳥が大きな卵を産むんやで大変やんさ。それを 2 個くらい産むんさ。産卵は 3 月終わりから 4 月のあたまくらいやな。それを 24 日から 25 日抱卵する。自分らがヒナを見るのは 5 月あたまくらいなんさ。ヒナを海上で見る 2 羽か 1 羽やけど。だいたい親鳥も一緒にいるんさ。やけど、波があると見えへんで、風の無い日をさがして調査に行くんさ。ねきで(そばで)見やんことにはヒナは見えへんのさ。

ヒナは出たら(孵化したら)すぐ島から離れている。8 時か 9 時にはだいたい大島の沖 1 km くらい南にいるんさ。5 月の連休過ぎくらいまでは見えるけど、それ以降は全く見えなくなる。ヒナがこの辺の海に留まっていることはまずあらへん。どこかへ行ってしまう。年によっていなくなるのが 15 日以上ずれる時があるんや。6 月始めころ、親のそばに、一度だけずいぶん大きくなったヒナを流れ物にいたのを見たことがあるが。



カンムリウミスズメの卵(上)



ヒナ 2 羽を連れたつがい(右)



紀伊長島周辺の島々

カンムリは繁殖期の後、夏などにはここらでは見やん。夏の間は見たという人がまあないんさ。漁師に聞くんやけど、おらん言うんさ。ウミスズメは通って（渡って）いくときにちょこちょこ見るやけど。

カンムリウミスズメの多い年、少ない年

2012年にはカンムリが120羽くらい見えた時があったし、少ないときは2, 3羽の時もあった。去年(2012年)は多かった。どこへいってもおった。餌があるもんで。多い年があるのと少ない年があるのは餌のかげんやと思うんさ。沖に餌場があると餌によっていく。去年は潮の色がえかったんさ。プランクトン、小魚、甲殻類が多かった。潮目に餌があつまって、それにカンムリが集まってくる。

一昨年、2011年は海水が悪かった。糊

のようなプランクトン、漁師は「よろず」と言うのやけどそれが多くて、漁網にくっつく、魚の鰓にもひっつくので魚も息できないんさ。で(カンムリも)少なかった。大阪から30名ほど来て、大きな渡船で4時間探したが、見えたのは1羽だけやった。2010年も少なかった。カンムリがおらへん時には5, 6時間くらい探す時もある。双眼鏡でも200mくらいしかみえないもんで。海は広いもんで、何回か探さないと見えん。

この頃カンムリは、数も少くのうなった。10年以上前は3時間くらい探して100羽以上は見えた。昔は多いようにおもたな。最近は何十羽という群は見えん。特に陸地よりは少のうなったように思う。

漁師とカンムリウミスズメ

自分は夜にはカンムリを見に行っていないんさ。でも夜は猛禽類がおらんもんで、島の端のはたへ来とるようや。海老網の漁師の人は3時ころに電気を付けて網を上げに行くんやけど、近くでピーピー鳴いているというんさ。漁師はカンムリをマゴタロウ（孫太郎）ゆうて、昔は孫に土産で（カンムリを）捕っていった。洗い桶に塩水を入れて、浮かして遊んだ、鳥は滑空しないと捕れないので、タモですくえた。今はこんなことをしやへん。昔は漁師も多かったがカンムリの数も多かった。漁師はこういう鳥に関心ないし、目的の所（釣りの場所）へいったら船を止めとるんさ。漁はカンムリの（繁殖の）じゃまにはならん。カンムリが漁網に引っかかって死ぬというのはいま聞きな。網の問題やけど、水面に出てる漁網はこらで「もしき」という



大島沖でのイサギ漁
(上)

カンムリウミスズメ
(右)



定置網なんやけど、目も小さいし、これにカンムリは引っかからん。イセエビを捕る海老網は刺し網やけど水面深い所に張る。カンムリはあまり深く潜れんから問題はないんさ。

レジャーボートや海釣り問題

漁師は目的の場所（釣り場）に行くともう動かないが、レジャーの船は縦横に走りまわるので問題になるんや。レジャーボートは、渡船屋さんが貸すのもある。それが漁師の網の上に乗ってしまうこともあるんさ。網を破ると100万以上かかるが、保険をかけている。やけど問題や。ルールを守らへんで。レジャーの釣りが縦横に走るので、問題やカンムリの繁殖にも影響があるやろう。船外機のプロペラが怖いと思うんや。カンムリは潜るのも浅いので。一度首の無いカンムリの死体を見つけたことがある。レジャーボートの船外機やないかな。レジャーボートが増えたことは確かやな。

アオリイカ釣り（趣味の）はこの10年くらいに盛んになったんや。普段の日でも釣りよるものもいる。磯、島のはたへ釣り船で寄って、磯におろしてもらって釣ると、アオリイカがよく釣れる。クロサギなんかかわいそうなもんさ、休日なんか釣り客が多くて餌を採る場所があらへんがな。

耳穴島への上陸

耳穴島に上陸するには環境省の許可が必要なんさ。島に上がって巣の数を調べるのは大変で、無理やろう。巣穴は岩の崖にあり、ロープ使ってロッククライミングも必要やと思う。卵を抱いている時の上陸は調査でも、自分はお断りしている。カンムリは結構敏感やろうと思う。巣の数は孵化した後で、9月頃に上がって卵殻を調べたらいんや。

ウミスズメとカンムリウミスズメ

ここらにはウミスズメもいるんやけど繁殖していないと思う。ウミスズメは来るのがちょっと早いか、1月くらい2月に多い数で見られるけど。1ヶ月くらい見える時もあるが、餌がないと早くいなくなる。ウミスズメとカンムリは色々ちがうんさ。ウ

カンムリウミスズメについて

カンムリウミスズメ

(Japanese Murrelet *Synthliboramphus wumizusume*) は日本、韓国の離島で繁殖するウミスズメの一種です。ロシアのウラジヴォストク近郊のピョートル大帝湾でも幼鳥が見つかっており、繁殖の可能性がありますが、確証はありません。日本での繁殖地は三重県耳穴島の他、宮崎県枇榔島、京都府杵島、福岡県沖ノ島属島小屋島、伊豆諸島等が知られています。他のウミスズメ類と異なり、暖帯海域で繁殖します。離島の絶壁の岩穴などを巣とし、ヒナが孵化するとすぐに海に出るため、繁殖つがい数の推定が難しい。IUCNのレッドリストでは成鳥で10,000個体を越えないであろうと推定されています。最近の公益財団法人日本野鳥の会の調査で、伊豆諸島では1,000羽程度が棲息すると推定しています。本種は環境省レッドリストでは絶滅危惧第II類(VU)とされ、さらに国指定の天然記念物とされています。

一方、ウミスズメ (Ancient Murrelet *Synthliboramphus antiquus*) は分布が広く、日本、および韓国近海、オホーツク海、千島列島、アリューシャン列島、カナダブ

ミスズメは近くによれない。30m以上はネキ(そば)へ近寄れへん。カンムリは5mくらいまで近寄ることができるんさ。潜るのも、ウミスズメは20秒前後も潜るんやけど、カンムリは5秒くらい7,8秒までくらいしか潜らないんさ。

(次号に続く)

取材日：2013年11月6日

および2014年1月10日

写真はすべて堀内 弘 撮影

堀内 弘

1944年12月3日 紀伊長島町に生まれ、若い頃から環境省国設鳥獣保護区の管理・鳥類調査に従事する。国設紀伊長島鳥獣保護区管理員

リティッシュコロンビアまで分布し、個体数も格段に多いと推定されています。紀伊長島沖でもしばしば見られますが、紀伊長島周辺では繁殖しておらず、日本では北海道天売島、岩手県三貫島などで繁殖していますが、少数であるとされ、環境省により絶滅危惧IA類(CR)にされています。

(平井正志)

参考文献

中村豊・小野宏治(1997) 門川町枇榔島におけるカンムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume* について。宮崎県総合博物館研究紀要第20輯、25-40。

日本野鳥の会(2012)カンムリウミスズメ保護プロジェクト2011年事業報告、日本野鳥の会、東京

BirdLife International 2012. *Synthliboramphus wumizusume*. In: IUCN 2013. IUCN Red List of Threatened Species. Version 2013.2. <www.iucnredlist.org>.

Kondratyev, A. Ya (2000) Seabirds of the Russian FarEast

——ちょっと鳥見—— 蓮田のシギ・チドリ

桑名市 横山真一

桑名市という三重県でも最北端の地に住まいがある関係上、シギチの渡りのシーズンは隣県の蓮田に出かけることが多い。

春は蓮の芽が伸びて水面を葉っぱが覆い尽くす頃まで、秋は稲刈りが終わった水田の2番穂が伸びてきた頃に蓮の葉が枯れて

ゆく。その頃が観察のベストシーズンになるが、最近是通过する種類も個体数も随分と減ってしまい、かつて関西方面からもシギ・チドリの泰斗が頻繁に観察に訪れていたのに最近はすっかり寂しくなってしまった。

地球温暖化の影響で繁殖地の環境が悪化し、鳥たちの数が減っているのだろうか。例年オオハシシギやヒバリシギ・オジロトウネンなどが越冬して春には美しい夏羽を見せてくれたものだが最近はすっかり稀になってしまった。



オオハシシギ

アメリカウズラシギ



蓮田での観察はすれ違いの難しい狭い農道に車を入れることになり、あちこちに農家の方が車を停めて農作業に余念がない。たとえ車を寄せてすれ違ってても畦の縁が崩れてゆく。

私たち観察者は決して歓迎される存在ではなく、冷たい視線に合うこともしばしばなので遠慮しながらそっと見せていただいている。せっかく見付けた鳥たちは写真に残しておきたいけど、はるかに遠かったり近くても逆光になったりでなかなか良い写真を撮るのは難しい。

蓮田を訪れるシギ・チドリで一番数が多いのがムナグロとトウネンで、多い年はそ

れぞれ200羽くらいが渡ってゆく。次に多いのがウズラシギで、特に秋に数羽の幼鳥が羽を休め、体力を養ってまた渡ってゆくのが観察される。昨年秋に幼鳥と成鳥がたまたま目の前に並んだとき、成鳥より幼鳥の方がはるかに大きいのに気付いてとても驚いた。小さな成鳥は早であるが、図鑑によっては全長22cmと一まとめに書いてあり、大きさについてはまったく気にしてこなかったのが貴重で嬉しい出会いとなった。アメリカウズラシギも大体毎年1～2羽が観察され、秋が多いけど春にも見られることがある。

ウズラシギ
メス成鳥（右）
オス幼鳥（左）



オジロトウネン

蓮田周辺の春の風物詩は桜の花に群がるニューナイスズメで、毎年大勢のカメラマンが訪れる。毎年数百羽から千羽を超えるニューナイスズメが越冬し、この冬は特に数が多くて大変な賑わいを見せている。

蓮田は貴重なシギ・チドリの中継地であり、この環境がいつまでも守られるように願っている。



ニューナイスズメ

+++++

1401 ミヤコドリカウントの結果

津市 平井正志

2014年1月27日午後1時から3時にミヤコドリ・ズグロカモメ・コクガンを、四日市市高松海岸から、伊勢市松下海岸までの三重県伊勢湾岸全域でカウントしました。当日は長潮で、満潮：14時25分（四日市港）でした。これまで、環境省モニタリング1000事業などで調査されていますが、同時調査でないため、重複や数え残しがあり得ます。三重県伊勢湾岸に棲息、越冬する全数を把握するため、同時刻の調査を計画しました。前回のカウントでは榎田川以南は調査されていませんでしたが、今回は南勢地区会員の協力により、伊勢市松下海岸まで調査することができました。

総数 ミヤコドリ 56羽、
ズグロカモメ 14羽、
コクガン 8羽でした。

なお調査対象外ですが、ツクシガモ8羽も見られました。

前回2013年12月14日のカウントでは84羽が記録されており、調査前の情報ではもっと多くのミヤコドリが観察される可能性がありました。最大の集結地である安濃川河口で調査直前の1月23日にミヤコドリの群を追い回すハヤブサが見られ、ハヤブサを避けて、移動したミヤコドリの群があるかもしれません。また、来年2015年1月には同時カウントを計画しています。詳しくは行事案内をごらんください。なお今回の調査に参加した会員は次の方々です。

石原 宏・今井光昌・岡 八智子・
落合 修・久住勝司・世古口有司・
田中洋子・中村洋子・西村 泉・橋本祐子
林 益夫・平井正志・前田 聡・横山真一
(五十音順：敬称略)

—ミヤコドリカウント追記—

津市 今井光昌

今回、2014年1月27日のカウント調査でミヤコドリの記録が56羽となりました。2013年12月14日の今季第1回目の調査では84羽が記録されており18羽の減です。カウント数直前に80~90羽が見られているので減少の理由が不明でした。

西三河野鳥の会の下村孝嘉さんから西尾市の矢作古川河口に同日53羽のミヤコドリがいた情報を頂きました。

三重県の56羽と合わせると伊勢湾岸と三河湾岸を併せて109羽がいたことになります。今後のミヤコドリのカウント調査では三重県側の記録だけでなく愛知県側も含めた総数の把握も必要かと思えます。

記録

場所：愛知県西尾市矢作古川

観察日時：2014年1月27日

AM8:00とPM15:00

個体数：53羽

観察者：下村孝嘉・他

—解説—

津市 平井正志

ミヤコドリ：

ミヤコドリ (Eurasian Oystercatcher) は、ヨーロッパからアジアまで、広く分布する渡り鳥で、主に二枚貝を食べる。渡りのルートごとに個体数が推定されている。日本を含む、東アジアルートを通る個体はわずかに10,000羽と推定され、繁殖地はカムチャツカ半島、韓国西岸の岩礁などが知られている。環境省のモニタリング1000の調査による越冬期の各地の最大個体数を積算すると410羽(2011-2012年)から608羽(2012-2013年)である。東京湾の三番瀬が最も多く越冬期の最大数は278羽(2011-2012年)、223羽(2012-2013年)である。

環境省のモニタリング1000事業においては同一日、同一時刻の調査は行っていない。当会では同時調査を行い、2011年にはこ

れまで最大の104羽を数えた。

表はこれまでの野鳥記録に記載された調査結果である。

2006年以降の冬期最高数 (日本野鳥の会三重独自調査)

観察場所	観察日	個体数	合計個体数
五主海岸	2006/3/27	40	
安濃川河口	2007/1/29	43	
安濃川河口	2008/2/19	45	
安濃川河口	2009/1/19	57	
安濃川河口	2010/1/23	66	74
豊津浦	2010/1/23	8	
安濃川河口	2011/1/22	104	
安濃川河口	2011/12/22	62	
安濃川河口	2012/2/4	54	
安濃川河口	2013/12/14	70	84
高松海岸など	2013/12/14	14	

コクガンについて

コクガン(Brent Goose)は広く北半球に棲息するガンで、海辺に棲息し、アマモや海藻を食べる。内陸の沼、湖などには入らない。環境省レッドリストでは絶滅危惧II類(VU)で、かつ、国指定天然記念物でもある。環境省の全国調査の結果によると2012年1月に1,055羽、2013年1月には1,129羽であった。2013年1月の個体数の県別内訳を見ると、北海道155羽、青森472羽、岩手133羽、宮城358羽と、棲息は北海道、東北北部に集中し、それ以外ではわずかに富山4羽、三重7羽であった。ちなみに本会の野鳥記録による冬期の最高数は以下のものであった。

(2011-12 冬期)

2012/1/24 安濃川河口 12羽

(2012-13 冬期)

2012/12/25 松阪市雲出川河口 7羽

三重は関東以南でコクガンがまとまって越冬する貴重な場所であると言える。

ズグロカモメについて

ズグロカモメ (Saunders's Gull) は東アジアに棲息する小型のカモメで、干潟に棲息、採餌する。環境省レッドリストでは絶滅危惧II類(VU)とされている。中国黄海、渤海湾沿岸で繁殖する。Birdlife Internationalでは2011年に全世界の棲息数が成鳥は14,400羽、幼鳥も含めた全個体数は21,000-22,000羽と推定してい

る。日本では繁殖していないが、西日本に3,000羽ほどが越冬する。以下は環境省モニタリング1000による冬期の各調査地最高数を合計したものである。

2012-13 冬期 3,484羽
2011-12 冬期 3,335羽

2010-11 冬期 2011/1/22 金剛川河口
17羽、
2011-12 冬期 2012/1/19 金剛川河口
12羽
2012-13 冬期 2013/3/4 金剛川河口
15羽
となっている

本会の野鳥記録では

-----000000000-----

事務局だより

活動の記録 (2013年12月～2014年1月)

- 12/12 会報「しろちどり第78号」発行・発送作業
- 12/13 伊勢市役所へ出向き、倉田山公園一帯の整備計画について聞いた(南勢地区)
- 12/14 ミヤコドリ一斉カウント(北勢・中勢)
- 12/18 国土交通省 四日市港湾事務所/津松阪港事務所へ
(安濃川・志登茂川河口、三重大学裏の堤防改修工事について:代表)
- 12/22 南勢地区会(伊勢市図書館)

2014年

- 1/10 次号「しろちどり」取材のため紀伊長島へ
- 1/12 県委託平成25年度ガンカモ類およびカワウ一斉調査(180か所)
- 1/27 ミヤコドリ一斉カウント(北勢・中勢・南勢)
- 1/25 バードリサーチ主催のシギ・チドリ調査員交流会において調査結果発表

理事会報告 (2013年11月24日 出席:11名)

- ラムサール条約について 学習会
- シギ・チドリ調査員交流会
口頭発表 ミユビシギ:平井 セイタカシギ:今井
- 来年度の計画
参加者名簿の使用(会の行事への勧誘)などの許可
- 編集の補佐
- ミヤコドリ調査 年間3回予定
- ガンカモ調査地の再編
- チュウヒ問題

+++++

野鳥記録 (2013年11月9日から2014年2月8日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所(三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者 名	脚注
シロガモ	2	2013年11月9日	四日市市楠町吉崎海岸	雌	安藤 宣朗	1
ミヤマガラス	30	2013年11月11日	南牟婁郡御浜町	成鳥および幼鳥	西 教生	2
オオセッカ	1	2012年12月29日	南牟婁郡御浜町		西 教生	3
ベニマシコ	2	2013年11月18日	三重郡菰野町菰野	雌雄各1	矢田 栄史	4

野鳥記録(続き)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所(三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者 名	脚注
シノリガモ	3	2013年11月18日	四日市市楠町吉崎海岸	雌雄成鳥)各1 判別不可1	前田 聡	5
ズグロカモメ	4	2013年11月18日	川越町高松海岸	成鳥1・幼鳥3	横山 真一	6
ミツユビカモメ	1	2013年11月23日	川越町高松海岸	成鳥	山神 勝治	7
カヤクグリ	1	2013年11月21日	伊賀市上阿波町高良城 林道	雄成鳥	前田 聡	8
イスカ	20数	2013年11月26日	津市白山町伊勢見青山 高原	雌雄成鳥幼鳥 の混在	前田 聡	9
コクガン	8	2013年11月4日	松阪市阪内川河口		中村洋子	10
コハクチョウ	2	2013年11月16日	松阪市西黒部町		中村洋子	11
イスカ	22	2013年11月28日	名賀郡青山町メナード青 山リゾート	2013年12月3 日まで滞在	前田 聡	12
シメ	1	2013年12月9日	三重郡菰野町菰野	不明	矢田 栄史	13
ツクシガモ	5	2013年12月3日	河芸漁港北500m		西村 四郎	14
クロハラアジサシ	2	2013年12月6日	白子漁港の中		西村 四郎	15
クロツラヘラサギ	1	2013年12月17日	伊勢市東豊浜町土路池		世古口 有司	16
コウノトリ	1	2013年12月4日	多気郡明和町蓑村		中村洋子	17
コクガン	23	2014年1月3日	松阪市雲出川河口		中村洋子	18
クロハラアジサシ	2	2013年12月27日	鈴鹿市稲生町	2014年1月16 日まで滞在	山神 勝治	19
ナベズル	1	2014年1月5日	松阪市東黒部		中村洋子	20
ミヤコドリ	90	2014年1月5日	津市安濃川 84羽と雲出 川河口 6羽		中村洋子	21
ツクシガモ	1	2013年12月31日	松阪市漁師町		田中洋子	22
ツクシガモ	9	2014年1月23日	松阪市三渡川河口他		中村洋子	23
シベリアジュリン	1	2013年12月28日	松阪市愛宕川河口		西村 四郎	24
アメリカコガモ	1	2014年1月25日	いなべ市大安町 両が池	雄	安藤 宣朗	25
ミコアイサ	10	2014年1月15日	いなべ市大安町 両が池	雄6雌4共に成 鳥	安藤 宣朗	26
セイタカシギ	15	2014年1月11日	鈴鹿市 山上池		平井 正志	27
ハヤブサ	1	2014年1月23日	津市安濃川河口	成鳥、雌雄不明	平井 正志	28
イスカ	16	2014年1月29日	津市芸濃町経ヶ峰山頂	雄および雌	平井 正志	29
ハチジョウツグミ	1	2014年2月6日	四日市市川島町		矢田 栄史	30

脚注；

- 1) 雌若鳥と思われる2羽が泳いでいた、雄がいなか探すも見掛けなかった
- 2) ハシボソガラスと送電線に止まっていた
- 3) 鳥類標識調査中に確認されました、足環をつけずに放鳥しています
- 4) 去年は秋から春さきまでこのあたりで越冬してたのでこの冬も楽しみである
- 5) ヒドリガモの群れの中に3羽のシノリガモ。雄の脇は図鑑では赤栗色となっているが未だ一部(足の付近)のみの換羽中で今期初認であった
- 6) 蟹を好んで食べているズグロカモメですが、ゴカイを好んで食べる幼鳥もいた
- 7) たくさんのユリカモメとウミネコの中に1羽、水浴びをしていた
- 8) 今期初認
- 9) 入れ替わり20数羽が確認された、今期初認
- 10) 11月11日 9羽を観察
- 11) 地元の人が11/13日に飛来を確認
- 12) 2日前の青山高原での発見後、青山リゾートでも5羽が更に4日後22羽を確認した
- 13) 木のとっぺんあたりでゆったり羽づくろいをしていた
- 14) 波打ち際に5羽がならんでいました
- 15) ユリカモメに混じって流れてくる餌をとっていました
- 16) さかんに採餌行動をとっていた。1羽のダイサギが共におり、他のダイサギ、アオサギが近づくと追い払っていた。仲良しなのだろうか
- 17) 地元の人が発見、12月10日まで滞在、脚輪から今年4月に京都府丹後市の人口巣塔で生まれた個体と判明
- 18) 12/10日 15羽、12/23日 19羽 更に1/3日 23羽に増加した
- 19) この時期にクロハラアジサシが見られるのは、珍しいのでは？ 12月28日も居たのでひょっとしたら越冬している可能性があるのでは？ 1/4日に1羽となり1/16日に2羽共居なくなった。ごま塩のような頭部、黒い部分が目の下までおよんでいないこと、などから本種と識別
- 20) 地元の人が発見
- 21) 満潮だったので安濃川中州に並んでいた
- 22) コガモやセイタカシギたちと一緒に1羽だけ泳いでいた、今期初認
- 23) 雲出川河口 2羽 三渡川河口 6羽 喜多村新田 1羽 合計9羽 三か所で観察したもの
- 24) オオジュリンの群れのなかにいました。嘴の色が上下で異なること、上嘴の形が直線上に見える。全体に灰色っぽいことから本種と識別
- 25) コガモの群の中に1羽いた。同時観察者・写真撮影：中嶋俊之氏ほか
- 26) 両が池の西池に4羽・東池に6羽いた
- 27) 池のふちのコンクリート法面でカモ類とともに休んでいた
- 28) ミヤコドリ40羽ほどの群れを追って、上流から飛来し、また、上流へ去っていった
- 29) 頂上直下の林の中で騒いでおり、その後、群がヒノキの梢に移動し、イスカと確認することができた。北東へ飛び去った。
- 30) 初めて見るがすぐにハチジョウツグミだとわかった

編集部より；野鳥記録は鳥類の棲息についての記録を残すためのものであり、発見者の功績をたたえるためのものではありません。また、当会は発見者がだれてあるかについては関知しません。報告者の名前は記録の的確性を残すために記載します。

オオセッカ (西 教生)



シノリガモ (前田 聡)

ミツユビカモメ (山神勝治)



イスカ (前田 聡)

クロツラヘラサギ (世古口有司)



ハチジョウツグミ (矢田栄史)

クロハラアジサシ (西村四郎)



クロハラアジサシ
(山神勝治)

シベリアジュリン (西村四郎)



+++++
**探鳥会報告 (2013年11月～
2014年1月)**

● 香良洲海岸探鳥会

2013年11月2日(土) 13:30～15:30

津市香良洲町 香良洲海岸

今井光昌 今井鈴子 参加者15名(会員
13名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、ホウロクシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計32種

午前の探鳥会を今年は午後からにしましたが、32種と観察種数は多くなかった。台風で浜辺に打ち上げられたゴミの影響が大きいように思われる。天気が良すぎてオオアジサシが遠かったのも残念でした。

● 中村川探鳥会

2013年11月3日(日) 9:30～11:30

松阪市嬉野一志町 中村川中流域

竹川華子 小野新子 参加者14名(会員
9名)

+++++
マガモ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ケリ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、オオタカ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計26種

今年はいつまでも暑さが続き、小鳥は少ないのではないかと思いましたが、26種で例年通りでした。

橋の上から見た中村川は、藪だった所が無くなり土が盛り上げてあり、また小鳥が住みにくくなったと思いました。

オジロトウネンには出会えず、カモ類も少なめでした。

● 熊野川河口探鳥会

2013年11月10日(日) 開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 海蔵川探鳥会

2013年11月23日(土・祝)

9:45～11:45

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者13名(会員9名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、ケリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ド

バト 計19種

爽やかに晴れた秋晴れの中での開催となりました。風が少々ありましたが、穏やかな日でした。

いつも通り代官橋の上で定点観察を行いました。天気が良すぎたのか大変静かな開始となりました。まだ川面にはカモ類の姿がいつもよりかなり少なかったです。定番のカワセミが結構姿を見せてくれたのが幸いでした。残念ながら鳥の出が少なかったのですが、晩秋の川岸を歩いて久しぶりにリフレッシュ出来た一日でした。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2013年11月24日(日)9:00~12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部
近藤義孝 米倉 静 参加者15名(会員7名)

キジ(1)、オカヨシガモ(6)、マガモ(35)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(15)、コガモ(30)、ホシハジロ(2)、キンクロハジロ(5)、カイツブリ(30)、キジバト(4)、カワウ(5000)、アオサギ(6)、ダイサギ(2)、コサギ(10)、オオバン(6)、タゲリ(15)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、ユリカモメ(2)、ミサゴ(7)、トビ(2)、チュウヒ(4)、ハイタカ(1)、ノスリ(1)、カワセミ(2)、チョウゲンボウ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(15)、ヒヨドリ(15)、ウグイス(1)、メジロ(3)、セッカ(3)、ムクドリ(100)、ジョウビタキ(2)、スズメ(60)、ハクセキレイ(10)、セグロセキレイ(5)、タヒバリ(10)、カワラヒワ(5)、ベニマシコ(1)、ホオジロ(5)、アオジ(1)、ドバト(3) 計46種

ラジオの電波塔にハヤブサが止まっていることから始まり、チュウヒ、ミサゴと次々に出てくる猛禽類に感動。乾き始めた田にはタヒバリ、タゲリ。池にカモ類と46種も観察できました。

● 員弁川探鳥会

2013年12月8日(日)9:00~11:40
いなべ市員弁町 員弁川周辺
共催団体/いなべ総合学園高校

近藤義孝 参加者13名(会員2名)

カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、アオジ、ドバト

計21種

員弁川といなべ総合学園周辺は、水田が広がっている。冬鳥を観察しようというテーマでしたが、多くの種類を見ることができませんでした。まだ、山の方にいるのかもしれない。

● ベルファーム探鳥会

2013年12月8日(日)9:30~11:30
松阪市 松阪市農業公園ベルファーム
小津みゆき 谷口ひろ子 参加者20名(会員16名)

オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、トビ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ 計25種

池の一つが数年ぶりの池干しで水が池底の半分までしかなく、現れた地面にイカルチドリ数羽がチョコチョコと歩き、いつも見られるカワセミは見られないと思いましたが、池の側面の石垣にとまりきれいなブルーの体を見せてくれました。後の池巡りも、小学生の子供さんが参加され少しにぎやかに探鳥会を終えました。例年に比べてカモの数が少ないように思われました。



ヨモギ

しろちどり 79号 (2014年3月)

● 横山池探鳥会

2013年12月15日(日)10:00～11:30

津市芸濃町 横山池

平井正志 石原 宏 参加者9名(会員7名)

オシドリ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、トビ、モズ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、カンラダカ、カラス類 計22種(うちオシドリは安濃ダムにて観察)

あいにく北風が強い日であり、参加者も多くはなかった。しかし、池畔の観察場所は木立に風がさえぎられ、比較的すごしやすかった。いつも見られるカモ類を一通り観察した。池をめぐる道の横では松の実をしきりに取り出して食べるヤマガラを観察した。その後、安濃ダムへ移動した。ダム湖ではオシドリを見ることができたが、我々が着くと間もなく飛び去った。おそらく20羽程度はいたものと思われる。探鳥会の後例年のように湖水荘で食事をし、来年度の津地区の計画を話し合った。

● 大仏山探鳥会

2013年12月15日(日)9:00～12:00

伊勢市・玉城町・明和町 大仏山公園周辺
橋本祐子 西村 泉 参加者11名(会員6名)

マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、雑種ガモ 計19種

寒くて冷たい日でした。風が強く鳥の姿も少なく寂しい探鳥会でした。

調整池にここでは珍しいハジロカイツブリがきていましたが、潜ったり出たりを繰り返して双眼鏡で追うのも大変でした。雑種のようなカモが一羽いました。

管理事務者でバードカービングの展示が行われていて、その製作者の方と、数日前に近くで豊岡からのコウノトリが観察され

たそうですが、その鳥を発見して事務局に情報を寄せて下さった方が参加下さいました。

探鳥会終了後、秋田大潟村産のチュウヒ米のおにぎりとお汁で交流会をしました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2013年12月22日(日)9:00～12:20

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

米倉 静 参加者19名(会員4名)

キジ(1)、マガモ(30)、カルガモ(80)、ハシビロガモ(40)、コガモ(80)、ホシハジロ(30)、キンクロハジロ(20)、カイツブリ(10)、カンムリカイツブリ(1)、キジバト(1)、カワウ(50)、アオサギ(4)、ダイサギ(3)、オオバン(4)、タゲリ(50)、ケリ(2)、イカルチドリ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、ユリカモメ(2)、セグロカモメ(1)、ミサゴ(8)、トビ(1)、チュウヒ(1)、ノスリ(7)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、コチョウゲンボウ(1)、モズ(5)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(50)、ヤマガラ(1)、ヒバリ(3)、ヒヨドリ(3)、ウグイス(1)、メジロ(5)、セッカ(1)、ムクドリ(17)、ツグミ(2)、ジョウビタキ(1)、スズメ(40)、ハクセキレイ(25)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(10)、カワラヒワ(30)、ホオジロ(10)、ドバト(44) 計47種

水路が工事のためか、横道の水路にカモが集まっている。港上空でノスリに10羽のカラスがまとわりつく。水を張った田にタゲリ・ハクセキレイ多くいた。木曾岬干拓ソーラー工事進行中近くをチュウヒ飛ぶ。帰り近く、ベテランがコチョウゲンボウを見つける。鋭い翼をひるがえし、何度もチョウゲンボウを威嚇していた。

● 上野森林公園探鳥会

2014年1月12日(日)10:00～12:00

伊賀市 上野森林公園

共催団体/上野森林公園・三重県環境学習情報センター

前澤昭彦 澤村保廣 参加者42名(会員6名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カル

ガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、オオバン、トビ、ノスリ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、ビンズイ、ホオジロ 計 25 種

参加者 42 名で大盛会となった。四十九新池のカモ 8 種をじっくりと観察、説明も十分できた。里山の小鳥は少なかったが、コゲラやエナガをじっくりと観察できた。

県の情報センターの発信で、津・四日市・鈴鹿市などからの参加者が多数あった。

● 銚子川河口探鳥会

2014 年 1 月 19 日 (日) 9:00 ~ 12:00
北牟婁郡紀北町海山区 銚子川河口
中井節二 北川直人 参加者 8 名 (会員 7 名)

キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ、ハヤブサ、モズ、ハシブトガラス、ウグイス、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、アオジ、ドバト

計 19 種

寒い日でしたので身内の探鳥会でしたが、猛禽の仲間のハヤブサ、ハイタカ、ミサゴ、トビなど見られたので、皆さん大満足でした。

● 両ヶ池探鳥会

2014 年 1 月 25 日 (土) 9:30 ~ 11:30
いなべ市大安町石樽東 両ヶ池
安藤宣朗 参加者 11 名 (会員 7 名)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ (アメリカコガモ)、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、オオバン、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ 計 31 種

注：アメリカコガモはコガモの亜種とされているため、種数に加えてありません。

寒の内なのに 3 月下旬の陽気、風もなく絶好の鳥見日和となった。

波が無く鏡の様な湖面に真っ白な鈴鹿の山々と悠然と浮かぶ沢山のカモたちの姿は、時を忘れ心を癒してくれた。ここでの探鳥会は初めての開催であったが松阪からの参加もいただき 11 名を得た。目玉のミコアイサは、とても愛想がよく「さー見てね」と言わんばかりに近くに寄って来たり、飛翔したりで堪能させてくれた。更に珍しいアメリカコガモが現れ感激の探鳥会となった。

カモ類：9 種類 その他小鳥類 22 種類 合計 31 種類を観察した。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2014 年 1 月 26 日 (日) 9:00 ~ 12:20
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者 18 名 (会員 6 名)

キジ(1)、オカヨシガモ(15)、マガモ(20)、カルガモ(80)、ハシビロガモ(12)、コガモ(100)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(2)、ミコアイサ(2)、カイツブリ(15)、キジバト(6)、カワウ(11)、アオサギ(3)、ダ



ビンズイ

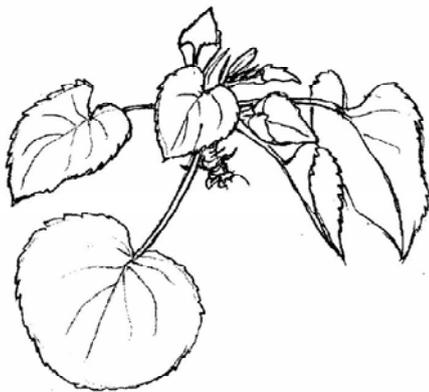
イサギ(1)、オオバン(20)、タゲリ(20)、ケリ(2)、イソシギ(4)、カモメ(6)、ミサゴ(4)、チュウヒ(2)、ノスリ(4)、コチョウゲンボウ(1)、モズ(3)、ハシボソガラス(350)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(4)、ヒヨドリ(20)、ウグイス(2)、ムクドリ(300)、ツグミ(3)、スズメ(100)、ハクセキレイ(12)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(30)、カワラヒワ(2)、ホオジロ(10)、アオジ(1)、ドバト(4) 計39種

前日からの雨も朝に上がり、冬とは思えないほどの暖かい日になりました。鍋田・木曾岬干拓地ではチュウヒやコチョウゲンボウ、ノスリ、木曾岬干拓地の水路ではミコアイサを観察できました。

● 大淀海岸探鳥会

2014年1月26日(日) 9:30～11:30
多気郡明和町 大淀海岸

中村悦子 参加者9名(会員6名)
ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、ヒメウ、カワウ、アオサギ、ダイゼン、シロチドリ、イソシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、ヨシガモ(ハイブリッド)
計30種



タチツボスミレ

漁師さんによるとスナメリが漁港に入ったようで、カイツブリ、ヒドリガモ、ホシハジロなど数は少ないように思いました。

海岸ではカワウの集団にヒメウがいたり、セグロカモメの集団にオオセグロカモメが1羽だけいて見分けやすく、シギ、チドリ類も近くで見ることができてよかったです。

時折雨が降るお天気だったのが残念でした。

編集後記

紀伊長島のカムリウミスズメをやっと記事にすることができた。数年来、ぜひ記事にしたいと思っていたがなかなか機会が無かった。堀内さんの語りをそのまま文にしてみた。

ずっと以前、彼の船の上から見た雪をいただいた大台ヶ原は今でも鮮明に思い出す。紀伊長島の海と島そして海鳥がそのまま守られることを願う。彼はまだまだ、話したりないことがありそうである。続きは次号に掲載予定。

(M. H.)

しろちどり 79号

2014年3月15日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：西村 泉

カット：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印刷：伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13